

九州大学大学院薬学研究所
院臨床薬学講座
福岡市薬剤師会副会長
福岡市薬剤師会研修委員

澤末 鮫
田田 嶋
康順 千
文子 織

育薬セミナーの開催について

育薬セミナーの経緯

福岡市薬剤師会では、九州大学大学院薬学研究所臨床薬学講座との共催により澤田康文教授の支援で、平成9年度から「医薬品適正使用」をテーマに薬剤師自ら勉強し発表し、その内容をみんなですべて評価し、議論し合う実践的な研修会を実施してきました。

これまでは、市薬剤師会の博多、中央支部の中で続けられていたものを、平成13年6月より市薬全体に拡大し対象を福岡市、更に福岡県、県外へと拡大させ、今までの「クロスアップ新薬」コーナーにもう一つ「処方チェック・ヒヤリハット」コーナーを追加して「育薬セミナー」として再出発しました。現在「育薬クイズ」「処方チェック・ヒヤリハット」コースアップ新薬」の三つのコーナーに分けられています。

福岡市薬剤師会では、毎月第2、3木曜日午後7時より福岡市薬剤師会館講堂で開催しています。2年を経たず、若い薬剤師を中心に参加者も増えて来て、市薬主催の他の研修会に比べて決して多くはないのですが、熱心に勉強してくれる方々に感謝しています。

月ごこの「育薬セミナー」も回を重ねるごとに知名度が上がり、遠く神戸、山口、熊本、鹿児島、長崎などからの参加者も増えています。遠路はるばる来る方々に比べて、地元福岡の薬剤師はいかに恵まれているかと思えます。薬剤師に「これでいい、これでいい」と熱いエールを送りつづける澤田教授のお膝元にながら、そのあがりたみをあまり感じないような気がしています。

内容

1、「処方チェック・ヒヤリハット」コーナー

処方監査、処方チェックは薬剤師の行う薬剤業務の中でも、医薬品適正使用のための入り口となる重要な業務の一つです。日々の処方監査の中で医薬品適正使用(育薬)を指導する中で、「この処方には一般的に問題がある」「この処方はこの患者にとっては問題がある」「この処方であればこのような服薬指導が必要だね」「この経験を活かして薬剤師

薬局は沢山いらっしやると思えます。それを一般的な「処方チェック」の事例として提供して頂き、広く薬剤師間で勉強し合うのは極めて大切なことではないでしょうか。

またこれまでは、医師や看護士の医療ミスがマシに大きく取り上げられてきましたが、昨今では薬剤師による調剤ミスもちらほら報道されるようになってきました。

「処方チェック」コーナーは、沢山いらっしやると思えます。それを一般的な「ヒヤリハット」の事例として提供して頂き、広く薬剤師間で勉強し合うのは極めて大切なことではないでしょうか。

た研修セミナーセッションは、薬剤師の技量を向上させる「育薬」を完全なセミナーとさせていただきます。

目的

セミナーの名前に用いられている「育薬」という言葉は従来の「創薬」と言う言葉に對比した言葉として、澤田教授が提唱されている言葉です。長年にわたり薬剤師は新薬を創る努力は惜しまなかつたけれど、果たして薬を「育てる」努力はしてきたでしょうか。長い研究開発の末や効な薬が、相互作用等々のチェックミスにより、市場から消えてしまった悔しい過去があり

「リスクマネジメント」を身をもって対処していく力をつけていきたいと思います。

「処方チェック」コーナーは、沢山いらっしやると思えます。それを一般的な「ヒヤリハット」の事例として提供して頂き、広く薬剤師間で勉強し合うのは極めて大切なことではないでしょうか。



コーナーで事例を出し合い、検討しています。各薬局の事例の内容を検討し合うことにより質の高さ、より現場に適した内容の事例集を作ることができると思っています。

この研修会のメインとなる「処方チェック・ヒヤリハット」「クロスアップ新薬」の西コーナーは、薬剤師として必要となる薬学的知識、技能、態度の充実を目指したものです。この二つは相互に深く関係したセミナーであり、両方を研修することが真に育薬を理解するための必須事項と思われまふ。もし皆さんがこのセミナーに参加されたら、澤田教授の薬剤師に対する熱いエールにきくと奮い立たされるだろうと思えます。なお、育薬クイズは具体的な事例を出し、①この処方どこが問題か②問題となる理由は何か、を尋ねるもの

(末田順子)

にも欠かせないことだと思えます。

本コーナーは、全国ネットあるいは福岡市薬剤師会員から寄せられた、日々の業務において遭遇した「処方チェック」、疑義照会、投薬ミス、ヒヤリハットなどの事例、われわれが精細に解析し、参加者全員で「処方チェック」する、どう問いつつ防げようといった項目を積極的に議論し合うというものです。即ち日々の「処方チェック」、調剤、服薬指導」などの業務より一層充実したものにしたいと考えています。

2、「クローズアップ」新薬「コーナー」

薬の体の中の動きと動きを「アーマコキネティクス」と「アーマコダイナミクス」の観点から理解することは、「新薬」を目指す薬剤師にとって最大の武器となります。

排泄型か、体内動態の特性は、臨床的に意味のある薬物相互作用が起るか？この薬の薬理効果、副作用は定量的に他の薬に比べてどの様な位置づけとなるか？この薬が関係した処方チェック・疑義照会はこのように行

『ヒヤリハット』「コーナー」事例

▽服薬コンプライアンス不良で一包化のためデバケン錠からデバケン錠への変更

▽明らかに過量投与である処方に対して納得いかないまま調剤してしまつた薬剤師の歳の男児に Augsberger の式を用いての計算で、明らかに過量投与のボロニンシロップについて疑義照会をしたが、医師は処方通りの調剤を指示した。疑義照会をすれば納得のいかない調剤をしても良いのか？

▽納品ミスと認識不足

▽ナットウキナーゼ含有健康食品は「アーマコキネティクス」の問題ないか？

▽初期の適切な使用には必ず疑義照会を「整形」

▽パファリン81錠錠の適応外使用の用法・用量を把握しておらず、思い込みで調剤して投薬ミス

▽同一成分の後発医薬品の薬品類に先発医薬品が混入して調剤ミス

▽抗アレルギー剤では月経異常にも注意を「抗アレルギー剤の中には月経異常を来すものがある。男性医師にはそのことを言いつけない患者がいることを考慮して、服薬指導をしなければなら

▽医師・看護師の十分な説明、薬剤師の不問とのためインターフェロニン自己注射の方法を修得できないまま投与を続け

▽「コーナー」の規格が不明瞭であった。

つたらいかな。この薬の調剤にはどのような注意が必要か。患者への服薬指導上の注意点は何かあるか？など薬剤師が持つていなければならない知識、技能、態度が全て含まれていく。

本「コーナー」では、われわれのサポートを受けながら、薬剤師自らが新薬の薬品情報を題材として、前記の内容をまとめ

上げ、それを「レセプション」シオンすることになり

ます。その中で個々の「アーマ」のまとめ方、レセプションの技法、レセプションの進め方、問題解決の方法などの能力を研鑽します。

レセプションのあとに討議が行われ、新たな課題が与えられることもあります。

薬の体の中の動きと動きを「アーマコキネティクス」と「アーマコダイナミクス」の観点から理解することは、

「コーナー」の「ヒヤリハット」事例

「コーナー」の「ヒヤリハット」事例

「コーナー」の「ヒヤリハット」事例

「コーナー」の「ヒヤリハット」事例